

山梨県に発生した肺吸虫症について

葉袋 勝 梶原 徳昭
久津見 晴彦 千葉 直彦*

人間あるいはその他の哺乳動物の肺に寄生する肺吸虫は現在明らかに独立種と考えられるものには6種以上ある。人体寄生種と報告されているものは、ウエステルマン肺吸虫 *Paragonimus westermanii* である。しかし宮崎肺吸虫 *P. miyazakii* が1961年発見されて以来、その人体感染例が追究されてきたが、横川ら及び林らによって免疫診断及び感染経路の調査によりその可能性が強くなっていた。ところが今回山梨県下において肺結核症と疑われた患者の胸水より宮崎肺吸虫の虫卵が初めて検出された。以後、免疫学的検査による宮崎肺吸虫症が多数発見されたので中間宿主等の感染経路の調査を実施した。

宮崎肺吸虫の感染状況

現在までに県立中央病院に来院した、サワガニ生食者36名中 補体結合反応、免疫電気泳動によって宮崎肺吸虫症とされた者は10名であり表1に示した。全例とも胸水の貯溜、自然気胸を起しており、好酸球は最高44%までの増加を認めた。このうち症例1の患者の胸水より虫卵を検出し宮崎肺吸虫と同定した。この虫卵の計測値は従来の宮崎肺吸虫卵 $74 \pm 4 \times 44 \pm 2 \mu$ に一致している。現在までに宮崎肺吸虫症は免疫学的検査によってのみ診断されており、この虫卵の証明は本種肺吸虫の人体寄生という寄生虫学的重要性と同時に、その診断上重用な意味がある。

感染経路の検討

今回発見された肺吸虫症患者は全例ともサワガニを県下の飲食店で生食している事は表1でもあきらかである。このため公衆衛生課と協力して飲食店へ出荷している甲府市内2店のサワガニを取去し、メタセルカリアの寄生状態を検査した。この結果を表2に示した。A店より得たサワガニの宮崎肺吸虫メタセルカリアでは寄生率38.9%であった。この産地は静岡県川根であり、東京築地の水産物店を経由して山梨へ出荷した事が判明した。この築地までのサワガニ搬入経路は林らによって報告されたものと同じであり、遠隔地に存在する寄生虫感染源食品としてのカニが一般的な流通機構を通して本県に持込まれる危険があったことを示している。次にこのサワガニの生食頻度は表1によってあきらかな様に1回1匹

の生食が多いが表2のごとく寄生率が38.9%と高く、またサワガニ1匹のメタセルカリア保有数も最高15個、平均2.5個でありサワガニ1匹の生食による感染の可能性は大である事はあきらかである

ま と め

人体宮崎肺吸虫症は免疫学的検査のみにおいて推定されていたが、今回山梨県下に発生した患者の胸水より虫卵を検出した。中間宿主であるサワガニの検査においてメタセルカリアの検出されたサワガニの産地が林らによって報告されたものと同一であった。

肺吸虫症が山梨県から発見されたのは初めてであるがこれは最近の食品流通機構の発達と関連しており、このような危険食品が容易に遠隔地に搬入される危険のあることを示している。なお患者の中には虫体が脳内に迷入したと考えられる脳肺吸虫症が2~3例認められることは注目される。

表 1 宮崎肺吸虫症の症例

No.	年令	性	C F 反応	好酸球数 (%)	サワガニの生食		
					時 期	回数	匹数
1	42	男	>×160	44	48.2-3	4	20
2	50	男	>×160	34	48.3	1	20
3	27	男	>×160	24	48.4	1	1
4	24	女	×30.6	3	48.4	1	1
5	19	男	×19.3	1	48.4	1	1
6	49	男	×20	6	48.4	1	1
7	23	男	×58.7	21	48.9	1	3
8	25	男	>×160	22	48.10	1	6
9	33	男	>×160	43	48.7	2	20
10	26	男	>×160	3	48.10	2	6

表 2 甲府市内の魚屋より取去されたサワガニの肺吸虫メタセルカリア (*Paragonimus miyazakii*) の寄生率

検 体	性	カニの検査数			検出されたメタセルカリア数		
		検査数	陽性数	(%)	総 数	平均	最高
A店 静岡県 川根諸田 産	雄	42	14	(33.3)	29	2.1	5
	雌	53	23	(43.4)			
	計	95	37	(38.9)			
B店 産地不明	雄	30	0				
	雌	40	0				
	計	70	0				

* 県立中央病院内科